

# 平成 21 年度 学校経営計画

小松市立栗津小学校  
学校長 掛下 雅子

## 1 経営理念

我が国の新しい教育の基本となる学習指導要領が告示された。今年度は、移行措置や先行実施にむけ、「生きる力」の理念を大切にしその実現のために努力をする。知識・技能の習得と 思考力・判断力・表現力等のバランスを重視し、道徳教育や体育などを充実させながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成する。

- ・安全で安心な教育環境の整備・充実
- ・存在感の味わえる学級経営の充実
- ・学習意欲が喚起される学習指導の充実
- ・家庭、地域との連携の緊密化

## 2 教育目標：喜んで登校し、生き生きと学ぶ子どもの育成

- (教育方針)
- ・知る楽しさ、学ぶ喜びを大切にし、確かな学力を育てる
  - ・ふるさとに親しみ、感動する心を育てる
  - ・運動に親しみ、健やかな心と体を育てる



## 3 中・長期経営目標

### (1) 学校の現状

① 山や川があり、古くから温泉が湧き出る自然豊かな地域である。教育課程の編制において様々な自然体験や環境教育を取り入れるのに好条件の地域である。

② 児童は、「明るく優しく素直」であるが「自分から進んで物事をする」ことがやや苦手である。よさを生かしながら、自分で考えて行動できるよう細やかな支援をする。

③ 保護者・地域は、学校におおむね協力的である。家庭学習等において、家庭の連携を図っていく。

### (2) 児童に関する目標（な・か・よ・し）

- ① なかよくたすけ合い、はげまし合う子（今年度頑張ること）
- ② かんがえ、進んで学ぶ子
- ③ よく遊び、体を鍛える子
- ④ しっかり挨拶する子



### (3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

① 教育者としての使命感や責任感を持ち、教科等に関する専門的な知識・技能や指導法など絶えず研究と修養に努める。

② 広く豊かな教養、児童に対する教育的愛情を持ち、子ども・保護者・地域から信頼されるよう努める。

③ 教頭を学校運営の要とし、各主任が機能し、教職員の適性や経験が生かされた活力ある組織的な学校に努める。

## 4 短期経営目標（今年度の重点目標）

### ① 組織的な学校運営

- ・教職員の共通理解のもと、課題や方策等を検討し、教育目標の具現化に向けて努力する。
- ・一人一人の教師力・組織力を高め、報告・連絡・相談の徹底を図る。
- ・企画委員会（校長・教頭・各主任）を定期的開催し、各主任が機能し、学校組織の活性化を図る。

### ② 確かな学力の育成

- ・「知る楽しさ・学ぶ喜び」を目指した授業に取り組み、確かな学力の向上に努める。
- ・授業と結びつけた家庭学習の充実を図り、学習意欲の喚起に努める。
- ・教育的支援を必要とする子どもの視点にたち、一人一人のニーズを把握し、必要な支援を行い、子どもの自立に向けた教育に取り組む。

### ③ 豊かな心の育成

- ・生命を尊重し、思いやりのある、正義感をもった子どもを育てる。
- ・家庭や地域と連携しながら、世代を超えた多くの人々とのふれあいの機会をつくり、人と人との交わりの中で生まれる感動を大切に教育に取り組む。

### ④ 健やかな体の育成

- ・「体力プラン1校1プラン」を実施し、一人ひとり目標を持ち、運動を楽しめるよう年間を通して取り組む。
- ・子ども達が、自らの健康に興味や関心を持ち、自らの体を大切にする子どもの育成を図る。（学校保健委員会のテーマは、「歯」について取り組む）

### ⑤ 家庭・地域との連携

- ・家庭学習、基本的な生活習慣、社会のルールやマナーなど基礎的な資質・能力を身につけるよう努める。
- ・環境教育を通して、エコスクール・エコファミリー運動に取り組む。

		自 己 評 価			
		評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	備考
① 組織的な学校運営	(教育目標の具現化) 課題や改善策等への共通理解する場をもち、全職員が、一丸となり目指す子ども像を意識した取り組みを行う	【努力指標】 各分掌や学年で、具体的・計画的な改善策を実践し、「めざす栗津っ子」の具現化に努めている	めざす栗津っ子の具現化の実践を A:十分に取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	主担当： 教頭 評価方法：教職員へのアンケート 実施時期：7月12月	
	(主任層の機能化) 各主任は、学校経営に参画する意識を持ち、学校運営の要である教頭を中心に、学校組織の活性化に努める。	【成果指標】 毎月定例的に企画委員会が開催され、各主任は、リーダーシップがとれている。	企画委員会の年間の開催数が A:年間10回以上 B:年間9回以上 C:年間7回以上 D:年間7回未満	主担当： 教頭 評価方法：各主任の「自己点検表」 実施時期：2月	
	(報告・連絡・相談の徹底) 校長・教頭、主任、教職員は、常に報告・連絡・相談する機会をもち、組織の一員としての自覚を持ち、素早い対応に努める。	【努力指標】 教職員の適性や経験を生かし、報告・連絡・相談の徹底に努めている。	報告・連絡・相談が A:十分できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった	主担当： 教頭 評価方法：教職員へのアンケート 実施時期：7月12月	
② 確かな学力の育成	(授業改善) 児童一人一人の学習状況を的確に評価し、実態にあった効果的な指導法の工夫を図る。	【満足度指標】 児童が、授業を分かりやすく・楽しいと感じている。	授業がわかった・楽しいと思える児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	主担当： 教務部 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：7月12月	
	(学習規律の確立) 学習規律を身につけさせるための手立てを工夫し、実践をする。	【努力指標】 一人一人が大切にされ安心して学習に取り組める環境を作るよう工夫、実践している。	学習規律の確立にむけた実践を A:十分に取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	主担当： 研究・生徒指導部 評価方法：教職員へのアンケート 実施時期：7月12月	
	(家庭学習の充実) 授業と結びつけた家庭学習の充実を図り、次時の学習意欲につなげる。	【満足度指標】 児童が、家庭学習を、おおむね欠かさずしようとしている。	家庭学習に取り組む児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	主担当： 教務部 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：4月、7月12月	
③ 豊かな心の育成	(特別支援教育の視点) 一人一人のニーズを把握し、必要な支援を行い、それぞれの子の自立を図る。	【努力指標】 個に応じたきめ細やかな指導の充実に努め、効果的な習熟度別少人数指導に努めている。	個に応じたきめ細やかな指導の充実に取り組む教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	主担当： 教務部 評価方法：教職員へのアンケート 実施時期：7月、12月	
	(道徳教育の指導体制) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を確立し、組織的・計画的な取り組みを推進する。	【努力指標】 道徳教育において、組織的・計画的な指導体制ができるように取り組んでいる。	組織的計画的な指導体制の取り組みを A:十分に取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	主担当： 道徳教育推進教師 評価方法：教職員へのアンケート 実施時期：7月12月	
	(道徳教育) 年間計画に基づいて、計画的で適切な指導を行い「思いやりの心」「命を尊重する心」「正義感」を持った子どもを育てる。	【努力指標】 児童の発達段階や実態等を踏まえ、児童の道徳性を身につけるよう工夫し、実践している。	なかよく励まし助け合う児童の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	主担当： 道徳担当担任 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：7月12月	
④ 健やかな体の育成	(読書習慣) 本との出会いを計画的に進め、本を読む習慣をつけ、心豊かな子どもを育てる。	【満足度指標】 児童は、読む本の目標冊数を決め、本が、好きであると感じている。	本がすきと思える児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	主担当： 図書担当 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：7月12月	
	(体力プラン1校1プラン) 縦割り活動を通して、運動の特性にふれる楽しさや喜びを味わわせ、外遊びを推進する。	【満足度指標】 児童が、縦割り活動を通して、外遊びの楽しさを感じている。	外遊びが楽しいと感じている児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	主担当： 体育担当児童会 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：7月12月	
	(体力向上) 体力測定の結果を、体育の授業、行事、体育的活動の指導に生かすよう努める。	【努力指標】 体育の授業において、定期的に筋力や走能力を高める運動を取り入れるよう努めている。	体力向上の取り入みを A:十分に取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	主担当： 体育担当 評価方法：教職員へのアンケート 実施時期：7月12月	
⑤ 家庭地域との連携	(健康教育) 学校保健委員会を開催し、自らの健康に興味や関心を持つ児童の育成に努める。	【成果指標】 学校保健委員会で、児童は、歯について興味関心を持つことができた。	学校保健委員会の取り組みは、 A:十分できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった	主担当： 健康保健体育 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：12月	
	(地域の方とのふれあい) 世代を超えた多くの人々とのふれあいの機会を設け、感動し、感謝する児童を育てる。	【満足度指標】 児童は、ふれあいを喜び、感謝の気持ちを持っている。	ふれあいを楽しみにしている児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	主担当： 教頭 評価方法：児童へのアンケート 実施時期：7月12月	
⑤ 家庭地域との連携	(保護者との連携) 家庭学習、基本的な生活習慣について、保護者との緊密な連携に努める。	【努力指標】 家庭学習について、保護者の協力を得るよう努める。	保護者が、家庭学習について協力する割合が A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	主担当： 教務部 評価方法：保護者へのアンケート 実施時期：4月、7月12月	

事業実施完了報告書

事業名	平成21年度 学校評価の充実・情報提供のための充実・改善等実践研究事業
-----	-------------------------------------

事業実施状況

年 月 日	事 業 内 容
4月	学校評価計画の作成
4月 22日	職員会議・校内研修（学習アンケート内容）
4月 24日	第1回学習状況調査の実施（保護者用・児童用）
5月 11日	第1回企画委員会
5月 15日	第1回研究推進委員会
5月 18日	第2回研究推進委員会
5月 19日	第1回学校評議員会（第1回学校関係者評価委員会を兼ねる）
5月 29日	第1回学校評価運営委員会
5月 29日	要請訪問研究授業（5年）
6月 8日	第3回研究推進委員会
6月 17日	職員会議・校内研修（学校評価項目アンケート内容）
6月 19日	第2回企画委員会
6月 23日	第2回学校評価運営委員会
6月 23日	校内研究授業（2年） 研究全体会
6月 29日	第4回研究推進委員会
7月 2日	第1回児童・保護者アンケートの実施
7月 10日	第3回企画委員会 研究推進委員会
7月 27日	学校評価推進事業協議会（京都ブロック協議会）参加（教頭）
8月 上旬	アンケートの分析 各担当で進捗状況記載
8月 3日	第4回企画委員会 第5回研究推進委員会
8月 25日	校内研修（中間総括と改善策の検討）
8月 28日	第3回学校評価運営委員会
8月 28日	第2回学校関係者評価委員会（学校評議員会4名+P2名+T6名）
9月 2日	校内研修（金沢大学加藤隆弘准教授招聘）
9月 30日	第4回企画委員会
10月 9日	校内研究授業（4年） 研究全体会
10月 15日	第5回企画委員会 研究推進委員会
10月 16日	研究発表会（向本折小）参加（田中・川越）
10月 21日	校内研修（自己評価に向けて）
10月 27日	研究発表会（国府小）参加（教頭・竹内）
10月 29日	研究発表会（稚松小）参加（川越）
10月 30日	第4回学校評価運営委員会
11月 9日	第6回企画委員会
11月 10日	研究発表会（荒屋小）参加（川越）
11月 11日	校内研究授業（1年） 研究全体会
11月 12日	研究発表会（矢田野小）参加（校長・大田）
11月 13日	研究発表会（湖北小）参加（松村）
11月 18日	学校評価訪問研究授業
11月 26日	校内研究授業（6年） 研究全体会
11月 27日	研究発表会（第一小）参加（教頭・埴田）
11月 下旬	第3回児童・保護者アンケートの実施
12月 3日	研究発表会（安宅小）参加（校長・中村）
12月 8日	研究発表会（金野小）参加（竹内）
12月 22日	第5回学校評価運営委員会
12月 26日	小学校外国語活動教員研修会（愛知教育大）参加（田中）
12月 中旬	アンケート集計・今年度のまとめ・自己評価の実施
12月 22日	第6回学校評価運営委員会
1月 25日	第3回学校関係者評価委員会
1月 28日	「学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究」実践報告会
1月 29日	個性化教育実践発表会（八千代市立萱田小）参加（川越）
2月 22日	校内研修会（次年度に向けて共通理解）
2月 下旬～	事業報告書の作成・提出 保護者にリーフレット配布 公表

平成21年度 学校評価結果報告書

小松市立栗津小学校

	自己評価				学校関係者評価		次年度の方向 (改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	(教育目標の具現化) 課題や改善策等への共通理解する場をもち、教職員が、一丸となり目指す子ども像を意識した取り組みを行う	【努力指標】 各分掌や学年で、具体的な・計画的な改善策を実践し、「めざす栗津っ子」の具現化に努めている	めざす栗津っ子の具現化の実践を A:十分に取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:65% B:35% 各会合が適宜開催され、計画的で具体的な実践が図られていた。	B	授業参観や学校行事に参加していると先生方は非常にまともであり、栗津小学校全体が頑張っている様子がうかがえる。 「確かな学力」「豊かな心」「健康やかな体」はしっかり根付いている。	めざす栗津っ子の具現化の中で、今年度は「なによりよく助け合い、励ましよう子」に重点を置いている。各主任が機能し、課題や方策などを検討し、全職員が一丸となって取り組んでいる。企画委員会も月1回のペースで開催され、内容の充実も図られている。今後は、目標の具現化にむけて、教職員の適性や経験が活かされるよう、教師としての専門的な知識・技能や指導法などの研究を深めていく。
	(主任層の機能化) 各主任は、学校経営に参画する意識を持ち、学校運営の要である教頭を中心に、学校組織の活性化に努める。	【成果指標】 毎月定期的に企画委員会が開催され、各主任は、リーダーシップがとれている。	企画委員会の年間の開催数が A:年間10回以上 B:年間9回以上 C:年間7回以上 D:年間7回未満	月1回のペースで実施しており、各主任の参画意識の向上が図られていた。	A	「喜んで登校し生き生きと学ぶ子どもの姿」を拝見できることから、「めざす栗津っ子」を具現化していると思う。	
	(報告・連絡・相談の徹底) 校長・教頭、主任、教職員は、常に報告・連絡・相談する機会をもち、組織の一員としての自覚を持ち素早い対応に努める。	【努力指標】 教職員の適性や経験を生かし、報告・連絡・相談の徹底に努めている。	報告・連絡・相談が A:十分できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった	A:58% B:42% 管理職に対してや教職員間の連絡・相談は徹底が図られていた。	B		
② 確かな学力の育成	(授業改善) 児童一人一人の学習状況を的確に評価し、実態にあった効果的な指導法の工夫を図る。	【満足度指標】 児童が、授業を分かりやすく・楽しいと感じている。	授業がわかった・楽しいと思える児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	肯定評価91% 実態に合った指導法の工夫により、おおむね児童は授業がわかった・楽しいと感じていた。	A	授業に参加できる子どもとできない子の差ができていないかと思われる。高学年、中学校へと進むにつれて差が大きくなるのではないかと不安に思うことがある。できていない子に対してどのような指導が必要か考えてほしい。	児童は授業をわかりやすい・楽しいと感じている。さらに児童相互のかわり合い・学び合いを通して「わかる授業」への手立てを考えていきたい。学習規律に関しては、全職員で一丸となって取り組むことの結果が見えている。学級別の補充学習を大切にすることで定着を図ってほしい。ほとんどの児童が宿題や自学などの家庭学習に取り組んでいる。今後は児童や保護者へのアンケート、家庭学習の方法の紹介、児童や保護者への啓発の工夫を継続して行い、自学の習慣をつけた児童がさらに増えるよう働きかけていきたい。また、特別支援教育の視点も大切に。今後は「気づきの一覧表」「プロフィール表」に取り組み、児童への共通理解を深め、個に応じた適切な支援を考えていきたい。
	(学習規律の確立) 学習規律を身につけさせるための手立てを工夫し、実践をする。	【努力指標】 一人一人が大切にされ安心して学習に取り組める環境を作るよう工夫、実践している。	学習規律の確立にむけた実践を A:十分にに取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:55% B:40% C:5% 今年度の最重要課題の学習規律については、全職員が改善・工夫に取り組んでいた。	A	昨年度実践していたオープンルームのような補充学習の開設を考えてほしい。先生一人では30～35人見るのは大変ではないのか。	
	(家庭学習の充実) 授業と結びつけた家庭学習の充実を図り、次時の学習意欲につなげる。	【満足度指標】 児童が、家庭学習をおおむね欠かさずしようとしている。	家庭学習に取り組む児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	肯定評価98% 各担任が宿題を必ず出して点検をして家庭学習の定着を図っていた。	A	子どもと先生の間関係で学習意欲は変化するので、先生方はそれを踏まえて指導に当たってほしい。	
	(特別支援教育の視点) 一人一人のニーズを把握し、必要な支援を行い、それぞれの子の自立を図る。	【努力指標】 個に応じたきめ細やかな指導の充実に取り組み教職員の割合が	個に応じたきめ細やかな指導の充実に取り組み教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	肯定評価90% 「気づきの一覧表」「プロフィール表」を活用して個人の把握に努め、効果的な指導実践をしていた。	B		
	(道徳教育の指導体制) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を確立し、組織的・計画的な取り組みを推進する。	【努力指標】 道徳教育において、組織的・計画的な指導体制ができるよう取り組んでいる。	組織的計画的な指導体制の取り組みを A:十分にに取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A:21% B:79% 各学級で計画的に道徳授業に取り組んでいたが児童の内面に訴える内容が必要。	B	あいさつや言葉使い・掃除などの取組については、子どもたちと共に先生方も良い鏡になるよう心がけて実践していったほしい。そうすれば、子どもたちの心も育ち豊かになっていくと思う。	全体計画や年間計画に基づき、道徳の授業を中心に各教科において道徳教育を行っているが、更に充実させる必要がある。今後は道徳教育の公開や道徳週間など学校の道徳の取組みを地域に向けて発信していく。
③ 豊かな心の育成	(道徳教育) 年間計画に基づいて、計画的で適切な指導を行い「思いやりの心」「命を尊重する心」「正義感」を持った子どもを育てる。	【努力指標】 児童の発達段階や実態等を踏まえ、児童の道徳性を身につけるよう工夫し、実践している。	児童の発達段階や実態等を踏まえ、児童の道徳性を身につけるよう工夫し、実践している。 A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	肯定評価91% 月ごとの生活目標で重点目標にあげて学校全体で取り組んでいた。	B	高学年の児童が低学年の児童の面倒を見る集団登校の状況が良くなってきている。	読書については、読書の日の設定に伴い「縦割り読書」を実施している。委員会のイベントと合わせて計画的に進めていく。また、高学年にならなると読書離れが防ぎ改善策として本との出会いを多くする工夫をしていく。
	(読書習慣) 本との出会いを計画的に進め、本を読む習慣をつけ、心豊かな子どもを育てる。	【満足度指標】 児童は、読む本の目標冊数を決め、本が、好きであると感じている。	本が好きな児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	肯定評価82% 図書ネットワーク導入により、貸し出し冊数が増加したが、学年によって差がある。	A		
	(体力プラン1校1プラン) 縦割り活動を通して、運動の特性にふれる楽しさや喜びを味わわせ、外遊びを推進する。	【満足度指標】 児童が、縦割り活動を通して、外遊びの楽しさを感じている。	外遊びが楽しいと感じている児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	肯定評価90% 月1回縦割り活動を実施し、外遊びを推進しており、児童も楽しいと感じていた。	A	体操競技大会、自転車競技大会、水泳大会、相撲大会、30人31脚などの対外競技に参加するのは大変良いことであり、参加するための練習が重要である。その点、先生方は計画をしっかりと立てて熱心に頑張っている。	
④ 健康やかな体の育成	(体力向上) 体力測定の結果を、体育の授業、行事、体育的活動の指導に生かすよう努める。	【努力指標】 体育の授業において、定期的に筋力や走能力を高める運動を取り入れるよう努めている。	体力向上の取り込みを A:十分にに取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない	A50% B:50% 器械運動、陸上運動を通して筋力や走力の向上を図っていた。	B		
	(健康教育) 学校保健委員会を開催し、自らの健康に興味や関心を持つ児童の育成に努める。	【成果指標】 学校保健委員会、児童は、歯について興味関心を持つことができた。	学校保健委員会の取り組みは、 A:十分できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった	歯の検査を実施し、予防のための保護者向けの情報提供や児童向けの劇を実践している。	A		
	(地域の方とのふれあい) 世代を超えた多くの人々とのふれあいの機会を設け、感謝し、感謝する児童を育てる。	【満足度指標】 児童は、ふれあいを喜び、感謝の気持ちを持っている。	ふれあいを楽しみにしている児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	肯定評価96% 3・4年生のふれあいフェスティバルが大盛況で祖父母への感謝の気持ちが育っていた。	A	学校は大変頑張っているのが活動状況や取組内容の具体的な良さなどをもっとアピールしていったらよいと思う。ホームページの更新を進めてほしい。	6年(乳幼児とのふれあい)5年(介護老人ホーム訪問)4年(盲導犬とのふれあい)3年(保育園児と登山)3・4年(老人とのふれあいフェスティバル)が実施され児童にとって感動する心が育っているが、単発的な行事に終わらせず、計画的、継続的に実施していく。家庭学習についても協力を得られるような方策を全体で考えていく。学級通信やHPなど学校からの情報発信も充実させていく。
⑤ 家庭・地域との連携	(保護者との連携) 家庭学習、基本的な生活習慣について、保護者との緊密な連携に努める。	【努力指標】 家庭学習について、保護者の協力を得よう努める。	保護者が、家庭学習について協力を得よう努める割合が A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	肯定評価90% 保護者の意識は全体的に高いが、学習の準備や家庭学習をしていない割合も少し高い。	B	地区の行事にも大いに参加させてほしい。その中でも子どもたちの情報教育やルールを教えていくので、「学校、家庭、地域」の連携をさらに推し進めていきたい。	

平成21年度 学校評価リーフレット  
粟津小学校のふりかえり  
～ 本年度の取り組みと今後に向けて ～

今年度は、学習指導要領の告示にともない、旧から新への移行措置や先行実施にむけ、「生きる力」の理念を大切にしながら、その実現のために努力をしてきました。また、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するために、次の4つの観点の充実を目指してきました。

- ・安全で安心な教育環境の整備・充実
- ・存在感の味わえる学級経営の充実
- ・学習意欲が喚起される学習指導の充実
- ・家庭、地域との連携の緊密化

## 教育目標

「喜んで登校し、生き生きと学ぶ子どもの育成」

- ・知る楽しさ、学ぶ喜びを大切にし、確かな学力を育てます
- ・ふるさとに親しみ、感動する心を育てます
- ・運動に親しみ、健やかな心と体を育てます



## 児童に関する目標（な・か・よ・し）

- ① なかよくたすけ合い、はげまし合う子  
＜今年度の重点目標＞
- ② かんがえ、進んで学ぶ子
- ③ よく遊び、体を鍛える子
- ④ しっかり挨拶する子



## 今年度の重点目標

### ① 組織的な学校運営

- ・教職員の共通理解のもと、課題や方策等を検討し、教育目標の具現化に向けて努力します。
- ・一人一人の教師力・組織力を高め、報告・連絡・相談の徹底を図ります。
- ・企画委員会（校長・教頭・各主任）を定期的開催し、各主任が機能し、学校組織の活性化を図ります。

### ② 確かな学力の育成

- ・「知る楽しさ・学ぶ喜び」を目指した授業に取り組み、確かな学力の向上に努めます。
- ・授業と結びつけた家庭学習の充実を図り、学習意欲の喚起に努めます。
- ・教育的支援を必要とする子どもの視点にたち、一人一人のニーズを把握し、必要な支援を行います。

### ③ 豊かな心の育成

- ・生命を尊重し、思いやりのある、正義感をもった子どもを育てます。
- ・家庭や地域と連携しながら、世代を超えた多くの人々とのふれあいの機会をつくり、人との交わりの中で生まれる感動を大切に教育に取り組みます。

### ④ 健やかな体の育成

- ・「体力プラン1校1プラン」を実施し、一人ひとり目標を持ち、運動を楽しめるよう取り組みます。
- ・子ども達が、自らの健康に興味や関心を持ち、自らの体を大切に育てる子どもの育成を図ります。

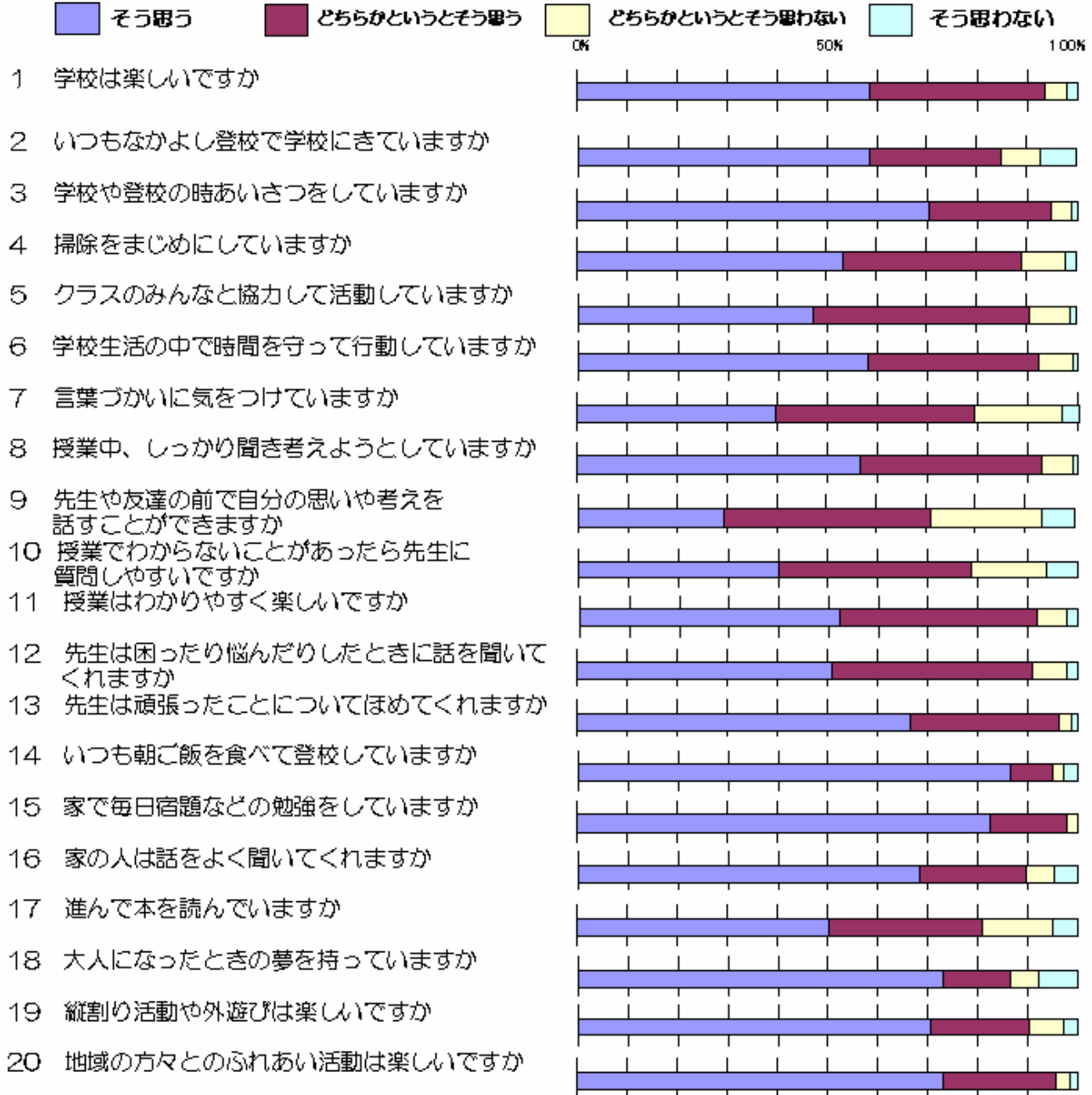
### ⑤ 家庭・地域との連携

- ・家庭学習、基本的な生活習慣、社会のルールやマナーなど基礎的な資質
- ・能力を身につけるよう努めます。
- ・環境教育を通して、エコスクール・エコファミリー運動に取り組みます。

重点目標について、保護者の皆様や児童たちにアンケートを実施しました。以下に主なアンケート結果のグラフを載せました。その分析結果を生かしながら教育を展開していきたいと思っています。



### 平成21年度 児童アンケート結果（前期・後期合計）



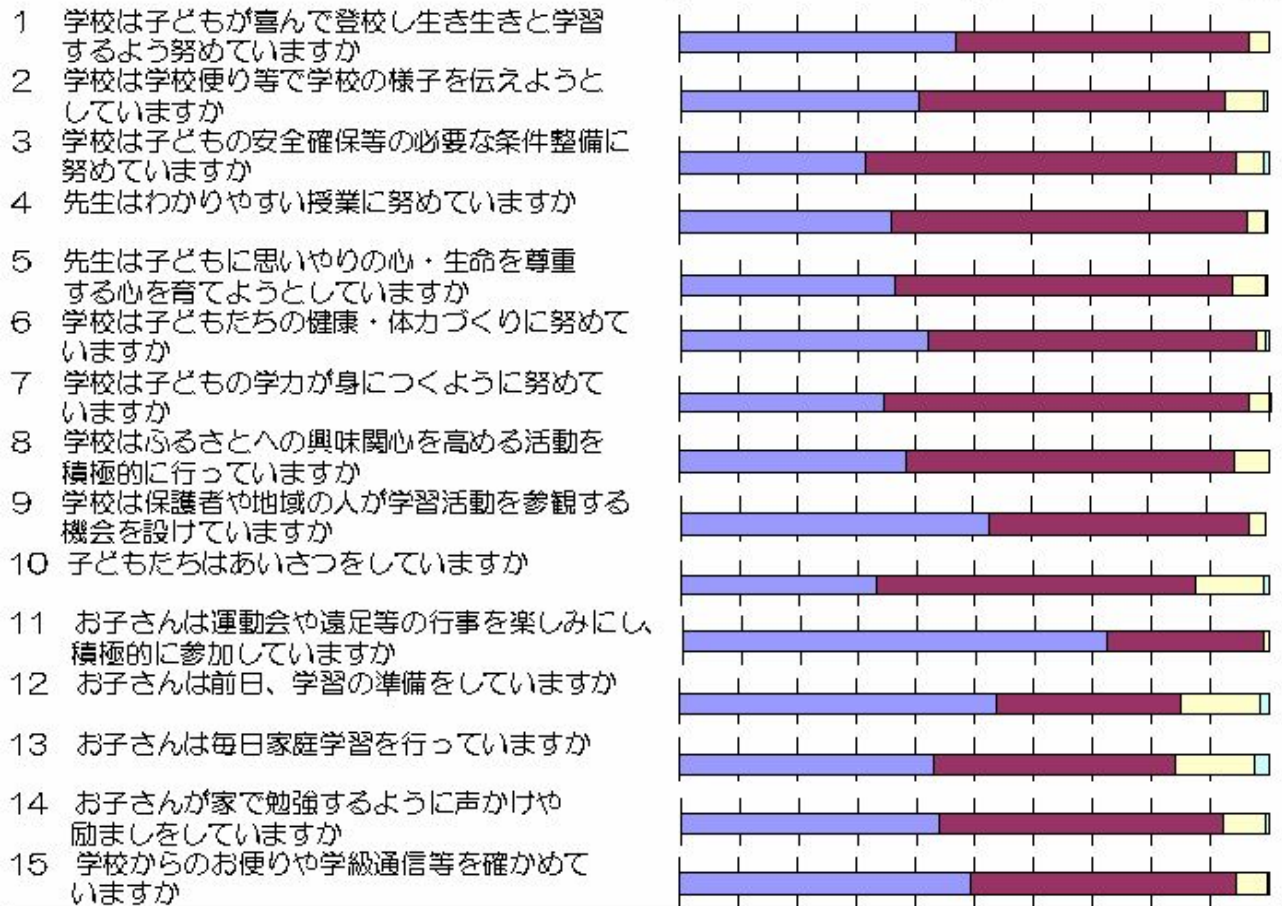
全体的に児童は90%前後の肯定評価をしています。学校は楽しいですかという質問には、90%以上の児童が肯定しています。また、地域との方々とのふれあい活動は楽しいですかという質問には95%以上の児童が肯定しています。一方、先生や友達の前で自分の思いや考えを話すことができますかという質問には、30%の児童が否定しています。全国的な傾向で、言葉使い等も含めて、今後、人前で話す能力(コミュニケーション能力)を育てていく必要があります。また、進んで本を読む児童が高学年になるにつれて低くなる傾向がありますので、読書週間を家庭とも連携して推進していく必要があります。





## 平成21年度 保護者アンケート結果 (前期・後期合計)

そう思う
  どちらかというと思う
  どちらかというと思わない
  そう思わない



保護者の方々にも全体的に90%前後の肯定評価をいただいております。子どもが喜んで登校し、生き生きと学習するように努めていますかの質問には、95%以上の肯定評価をいただいております。また、お子さんは運動会や遠足等の行事を楽しみにし、積極的に参加していますかの質問には、ほぼ100%の肯定評価をいただいております。一方、お子さんは毎日家庭学習を行っていますかについては、子どもたちの数値と差が見られます。また、前日学習の準備を行っていますかの質問には、15%ほどが否定しています。学校と家庭が連携し、家庭学習の充実を推進していく方法を宿題や学習の仕方のお知らせなどを工夫していく必要があります。そのためにも、学校からの情報発信を充実していきたいと考えております。保護者の方々からのご意見の中で多かった内容は、挨拶ができていないと感じている保護者がおられますが、子どもたちの数値と差が見られました。学校でもしっかりと取り組むとともにご家庭での協力をお願いしていきたいと考えております。その他、交通安全での対応をもっとするべきだという内容がありました。本校はわが町防犯隊や交通推進隊、老人会の方々に大変お世話になっておりますが、その方々以外に保護者(育友会)の方々にも協力していただく方向で考えてまいります。また、インフルエンザや事故等の情報提供をしっかりとしてほしいという内容に対しましても今後しっかり対応して情報発信の充実をめざしていきたいと考えております。



アンケートなどをもとに今年度のふり返りをしました。地域の方に学校関係者評価委員になっていただきました。

	評価項目と具体的な取組	学校関係者評価委員会	改善点や今後の取組
① 組織的な 学校運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や改善策等への共通理解する場をもち、全職員一丸となり目指す子ども像を意識した取り組みを行う。</li> <li>・各主任は学校経営に参画する意識を持ち学校運営の要である教頭を中心に組織の活性化に努める。</li> <li>・校長、教頭、主任、教職員は、常に報告・連絡・相談する機会をもち、組織の一員としての自覚を持ち素早い対応に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や学校行事に参加していると先生方は非常にまとまっており、粟津小学校全体が頑張っている様子がうかがえる。</li> <li>・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」はしっかり根付いている。「喜んで登校し生き生きと学ぶ子どもの姿」を拝見できることから、「めざす粟津っ子」を具現化していると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めざす粟津っ子の具現化の中で、今年度は「なかよく助け合い、励ましあう子」に重点を置いている。各主任が機能し、課題や方策などを検討し、全職員が一丸となって取り組んでいる。</li> <li>・企画委員会も月1回のペースで開催され、内容の充実も図られている。</li> <li>・今後は、目標の具現化にむけて、教職員の適性や経験が活かされるよう、教師としての専門的な知識・技能や指導法などの研究を深めていく。</li> </ul>
② 確かな 学力の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の学習状況を的確に評価し、実態にあった効果的な指導法の工夫を図る。</li> <li>・学習規律を身につけさせるための手立てを工夫し、実践をする。</li> <li>・授業と結びつけた家庭学習の充実を図り、次時の学習意欲につなげる。</li> <li>・一人一人のニーズを把握し、必要な支援を行い、それぞれの子の自立を図る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に参加できる子とできない子の差ができてきているのではないかと思われる。高学年、中学校へと進むにつれて差が大きくなるのではないかと不安に思うことがある。できていない子に対してどのような指導が必要か考えてほしい。</li> <li>・昨年度実践していたオープンルームのような補充学習の開設を考えてほしい。</li> <li>・先生一人で30～35人見るのは大変ではないのか。</li> <li>・子どもと先生の人間関係で学習意欲は変化するので、先生方はそれを踏まえて指導に当たってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律に関しては、全職員で一丸となって取り組むことの成果が見えている。学級別での補充学習を大切にして、継続的に指導することで定着を図っていきたい。</li> <li>・児童は授業をわかりやすい・楽しいと感じている。さらに児童相互のかかわり合い・学び合いを通して「わかる授業」への手立てを考えていきたい。ほとんどの児童が宿題や自学などの家庭学習に取り組んでいる。今後は家庭学習の方法の紹介、児童や保護者への啓発の工夫を継続して行い、自学の習慣をつけた児童がさらに増えるよう働きかけていきたい。</li> <li>・特別支援教育の視点を大切にし、今後も「気づきの一覧表」「プロフィール表」に取り組み、児童への共通理解を深め個に応じた適切な支援を考えていきたい。</li> </ul>
③ 豊かな 心の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師を中心とした指導体制を確立し、組織的・計画的な取り組みを推進する。</li> <li>・年間計画に基づいて、計画的で適切な指導を行い「思いやりの心」「命を尊重する心」「正義感」を持った子どもを育てる。</li> <li>・本との出会いを計画的に進め、本を読む習慣をつけ、心豊かな子どもを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつや言葉使い・掃除などの取組については、子どもたちと共に先生方も良い鏡になるよう心がけていってほしい。そうすれば、児童の心も育ち豊かになっていくと思う。</li> <li>・高学年の児童が低学年の児童の面倒を見る集団登校の状況が良くなった。</li> <li>・縦割り給食の取り組みは大変よく、子どもの心を育てていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画や年間計画に基づき、道徳の授業を中心に各教科において道徳教育を行っている。今後は道徳教育の公開や道徳週間など道徳の取り組みを地域に向けて発信していく。</li> <li>・読書については、読書の日の設定に伴い「縦割り読書」を実施している。ただ、高学年になるにつれて本が好きな児童が減少しているが、読書離れを防ぐ改善策として本との出会いを多くする工夫をしていく。</li> <li>・委員会のイベントと合わせて計画的に進めていく。</li> </ul>
④ 健やか な体 の育 成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り活動を通して、運動の特性にふれる楽しさや喜びを味わわせ、外遊びを推進する。</li> <li>・体力測定の結果を、体育の授業、行事、体育的活動の指導に生かすよう努める。</li> <li>・学校保健委員会を開催し、自らの健康に興味や関心を持つ児童の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操競技大会、自転車競技大会、水泳大会、相撲大会、30人31脚、世界の凧の祭典等の対外競技に参加するのは大変良いことであり、参加するための練習が重要である。その点、先生方は計画をしっかり立てて熱心に頑張っている。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中でも体力向上を図っているが、器械運動や陸上競技の大会や運動会、持久走記録会などを利用した体力向上も全職員体制で実践してきた。</li> <li>・月1回の縦割り活動では、さらに楽しさを感じられる内容にしていく。</li> <li>・学校保健委員会では児童と保護者にテーマについてのアンケートを取り、健康についての興味関心が持てるようにする。</li> </ul>
⑤ 家庭 地域 との 連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代を超えた多くの人々とのふれあいの機会を設け、感動し感謝する児童を育てる。</li> <li>・家庭学習、基本的な生活習慣について、保護者との緊密な連携に努める。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は大変頑張っているので活動状況や取組内容の具体的な良さなどをもっとアピールしていったらよいと思う。</li> <li>・ホームページの更新を進めてほしい。</li> <li>・地区の行事にも大いに参加させてほしい。その中でも子どもたちの情操教育やルールを教えていくので「学校、家庭、地域」の連携をさらに進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年(乳幼児とのふれあい)5年(介護老人ホーム訪問)4年(盲導犬とのふれあい)3年(保育園児と登山)3・4年(老人とのふれあいフェスティバル)が実施され児童にとって感動する心が育っているが、単発的な行事に終わらず、計画的、継続的に実施していく。</li> <li>・家庭学習について、一部の特定の保護者にも協力してもらえるような方策を全体で考えていく。</li> <li>・学級通信やHP等、情報発信も充実させていく。</li> </ul>